

第1章 計画の概要

1.1 計画策定の目的

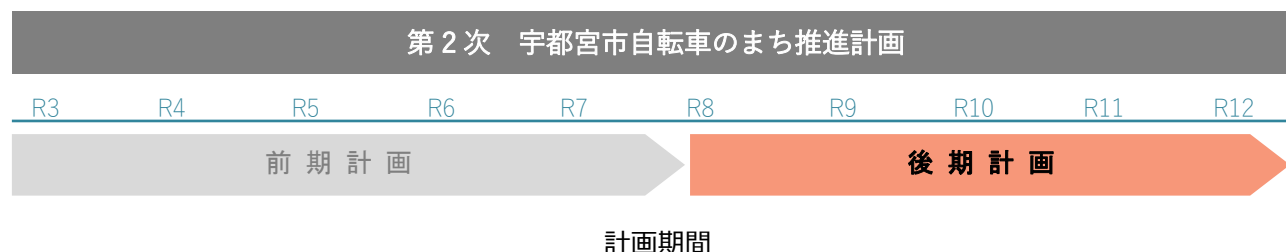
本市では、自転車を活用したまちづくりを推進するため、平成 14 年度に策定した「宇都宮市自転車利用・活用基本計画」、平成 22 年度に策定した「宇都宮市自転車のまち推進計画（前期計画）」、平成 27 年度に策定した「宇都宮市自転車のまち推進計画（後期計画）」、令和 3 年 5 月に策定した「第 2 次自転車のまち推進計画」（以下、「前期計画」という。）に基づき、24 年間にわたり各種施策事業を推進してきました。前期計画では、これまでの自転車を活用したまちづくりの成果を最大限活用しながら、本市が目指す NCC（ネットワーク型コンパクトシティ）における市民や来街者の移動を支え、誰もが健康で便利に楽しめる『自転車のまち宇都宮』の実現を目指し、自転車を利用する「基盤づくり」と「意識の向上」、「機会づくり」の目標を達成するため、6 つのプロジェクトを設定し、目標を様々な施策事業を展開してきました。

一方、前期計画の策定以降、国においては、令和 3 年 5 月の「第 2 次自転車活用推進計画」の策定を踏まえた令和 6 年 6 月の「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」の改定に続き、令和 7 年 4 月の脱炭素化に向けた道路法の改正、令和 8 年 4 月から施行された改正道路交通法では、自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が導入されるなど、誰にとっても、安全・快適に自転車を活用できる環境の実現が求められています。

このたび、前期計画の計画期間（令和 3 年度から令和 7 年度）が満了することを受け、自転車を取り巻く環境変化や施策の進捗状況を踏まえて、前期計画を見直し、「自転車のまち宇都宮」の推進に向けてより一層の事業展開を図るために、「第 2 次宇都宮市自転車のまち推進計画後期計画」（以下、「後期計画」という。）を策定するものです。

1.2 計画期間

令和 3 年 5 月に策定した前期計画は、10 年後の令和 12 年度を見据えた令和 3 年から令和 7 年までの実行計画であり、本後期計画は、令和 8 年度から最終年度の令和 12 年度までの 5 年間の実行計画です。



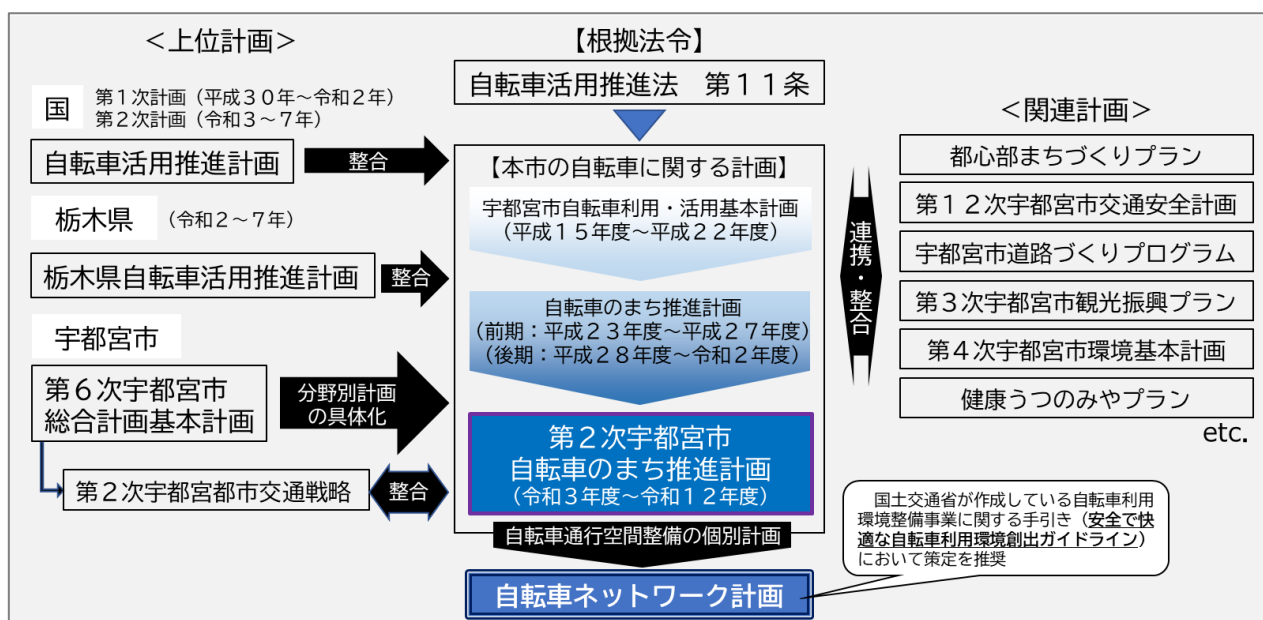
1.3 計画の位置づけ

1) 計画の位置づけ

本計画は、平成29年5月に施行された「自転車活用推進法」第11条の規定に基づく市町村自転車活用推進計画です。

また、本市においては、第6次宇都宮市総合計画の分野別計画「『交通の未来都市』の実現に向けて」の基本施策である「誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する」を実現するための計画として位置付けられ、第12次宇都宮市交通安全計画などとの整合、連携を図るものとします。

計画の位置づけ



<参考> 自転車活用推進法について

(自転車活用推進法の基本理念)

自転車の活用による環境負荷の低減、災害時における交通機能の維持、国民の健康増進等を図ることなど新たな課題に対応するため、交通の安全の確保を図りつつ、自転車の利用を増進し、交通における車への依存の度を低減することによって、公共の利益の増進に資すること等を基本理念とする。

(自転車活用推進法の市町村自転車活用推進計画に係る規定)

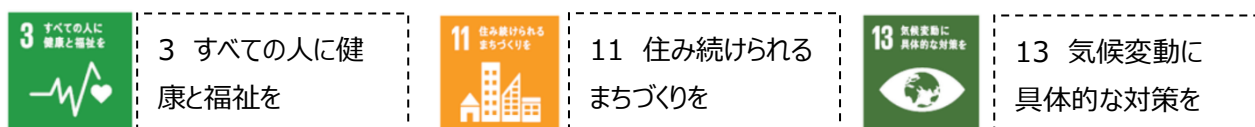
第十一条 市町村は、自転車活用推進計画（都道府県自転車活用推進計画が定められているときは、自転車活用推進計画及び都道府県自転車活用推進計画）を勘案して、当該市町村の区域の 実情に応じた自転車の活用の推進に関する施策を定めた計画（次項において「市町村自転車活用推進計画」という。）を定めるよう努めなければならない。

2 市町村は、市町村自転車活用推進計画を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表するよう努めるものとする。

2) 本計画と SDGs との関係

本計画に掲げた自転車の活用推進により、「健康・福祉」「安全・安心」「魅力創造・交流」「環境」「交通」などにおいて効果を上げることで、SDGs に貢献します。

【本計画の推進により貢献が期待される SDGs の目標】



SDGs とは

持続可能な開発目標（SDGs）とは、「Sustainable Development Goals」の略で、2015 年 9 月の国連サミットで採択された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGs は、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本として積極的に取り組むとともに、本市においては、SDGs 未来都市として、全庁を挙げて SDGs を推進しています。

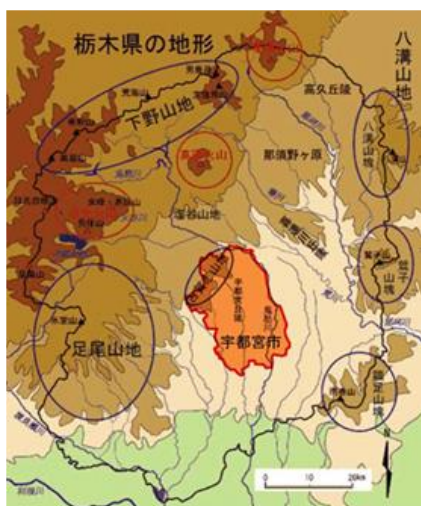


1.4 本市の自転車の概況

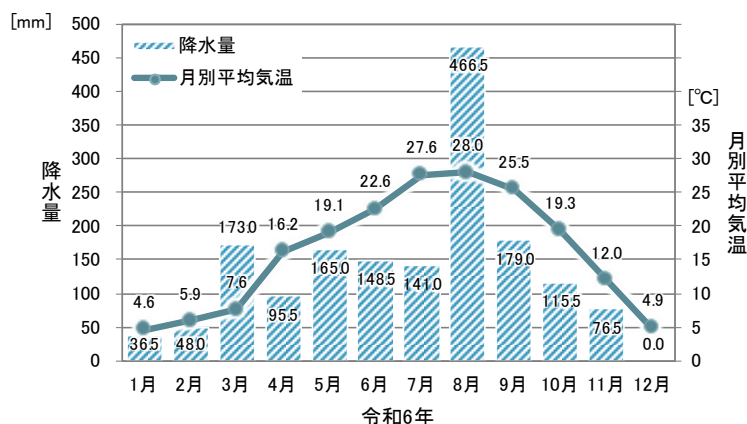
1) 市の概況

① 地勢

面積は約 416.85 k m²で、関東平野の北端、栃木県の中央部に位置しています。市街地を中心に平坦な土地が広がり、冬季の日照時間が長いなど、自転車の利用に適したまちです。



本市の地形

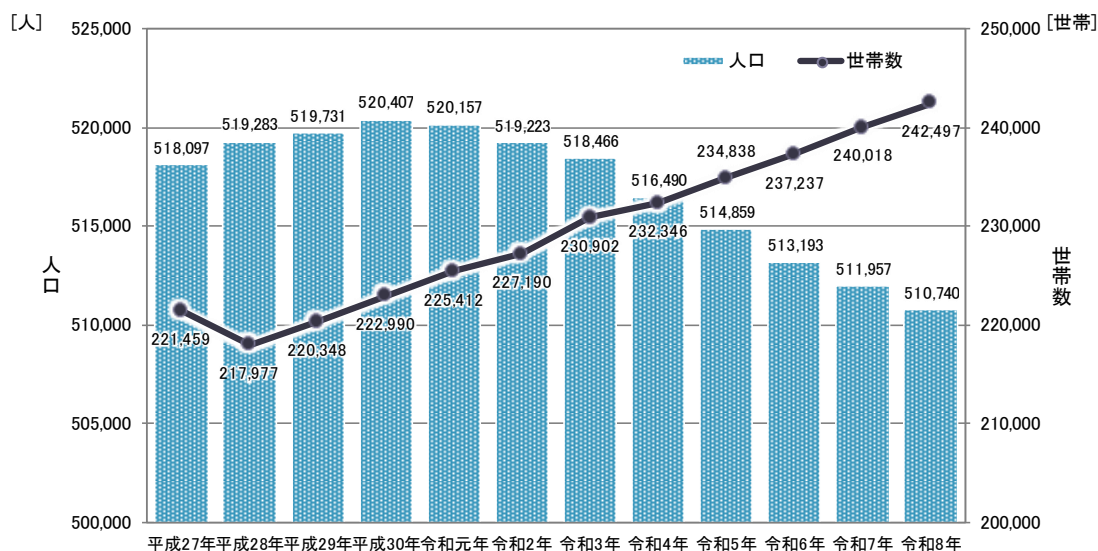


出典：気象庁ホームページ

本市の気象状況（降水量・平均気温）

② 人口

人口総数は約 51 万人であり、世帯数は約 24 万世帯です（令和 8 年 1 月 1 日現在）。平成 30 年をピークに人口は減少に転じています。

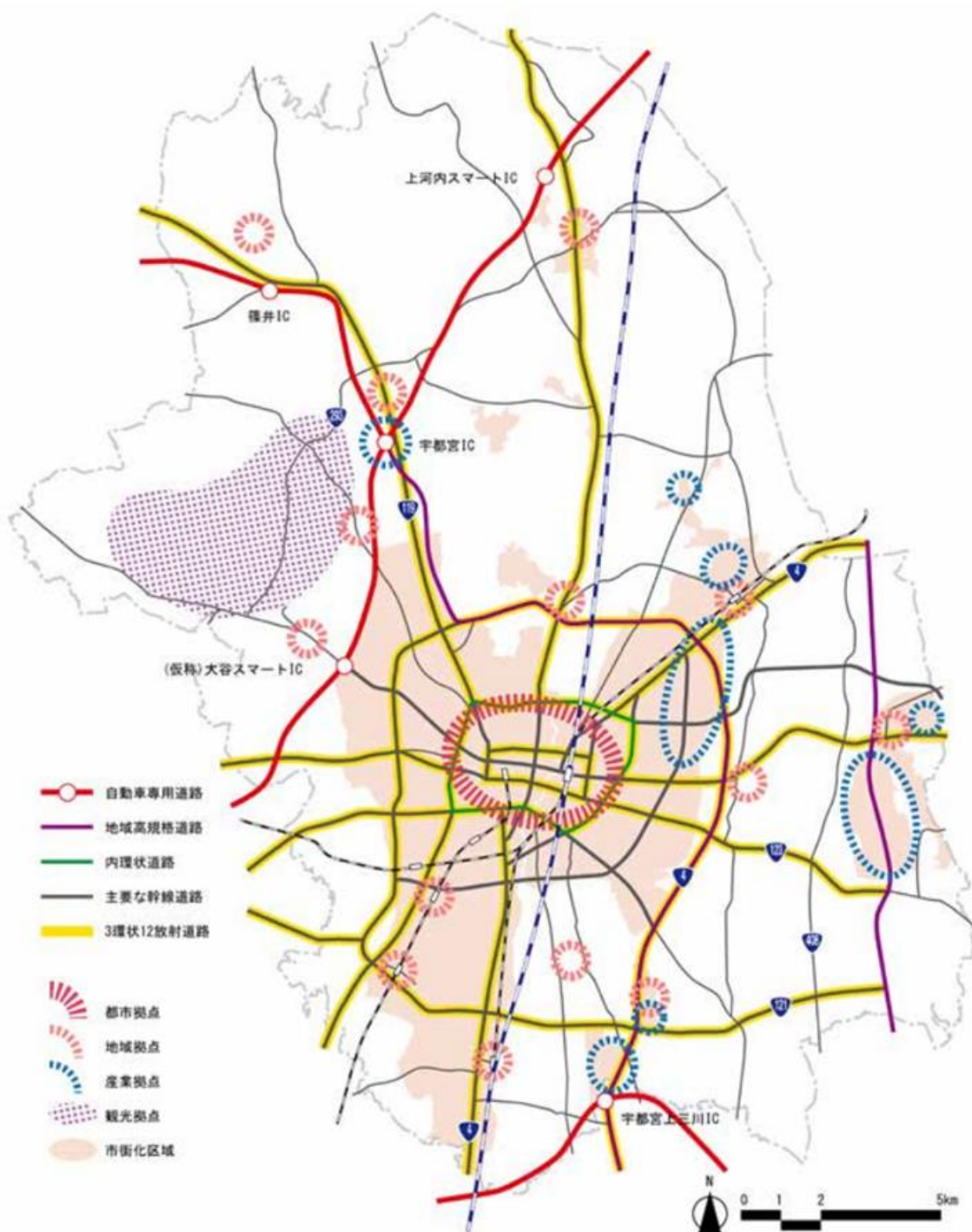


出典：宇都宮統計データバンク「総合統計」

本市の人口・世帯数の推移（令和 8 年 1 月 1 日現在）

③ 道路ネットワーク

誰もが便利で快適に移動できるよう道路環境を整備しています。道路ネットワークの中心である都心部を囲む「都心環状線」、「内環状線」、「宇都宮環状道路」の3つの環状道路と、都心部から周辺市町に向かって延びる12の放射道路については、令和8年3月28日に全線がつながりました。

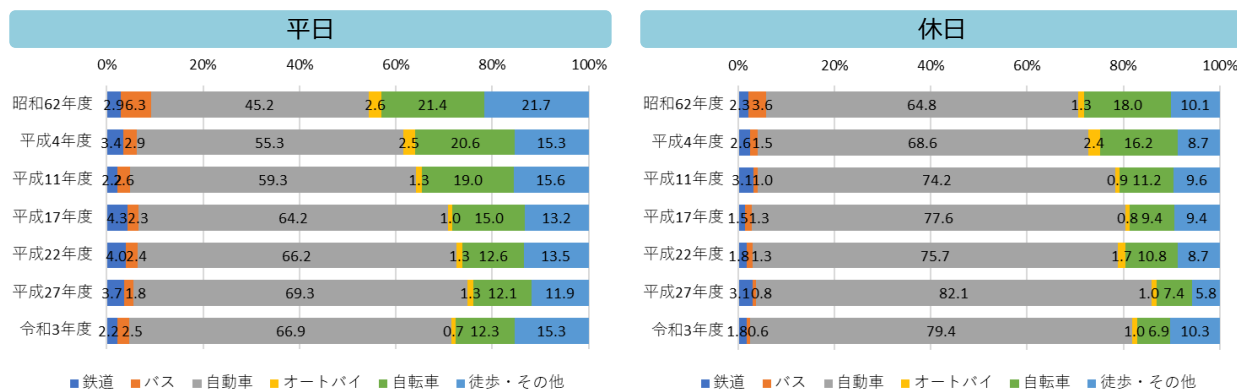


出典：第3次宇都宮市都市計画マスタープラン（平成31年3月）
本市の骨格道路整備構想図

④ 市民の移動手段

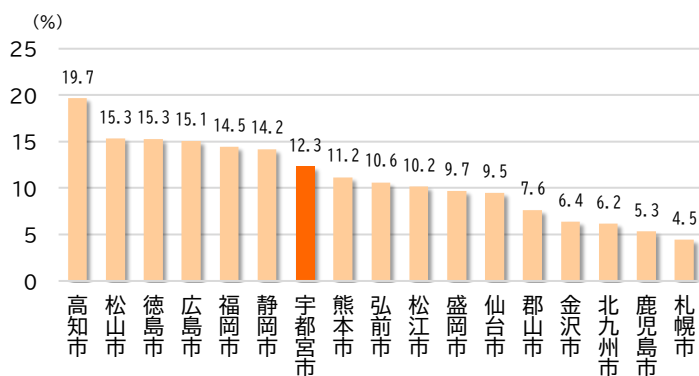
市民が移動する際の交通手段として、車を利用する割合が増え続けており、自転車を利用する割合は減少傾向にあります。

特に、目的地までの所要時間が3分の移動であっても自動車を利用する割合は50%を超えていることから、短時間の移動でも車が多く使われていることが一因と考えられます。

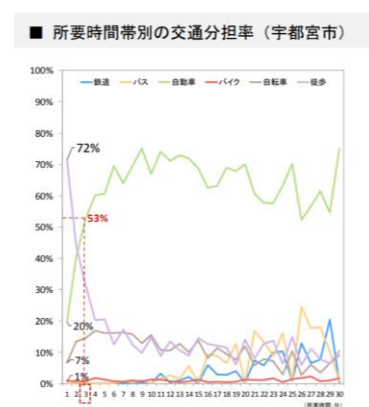


出典：全国都市交通特性調査を基に作成

本市の交通手段分担率の推移（上図：平日、下図：休日）

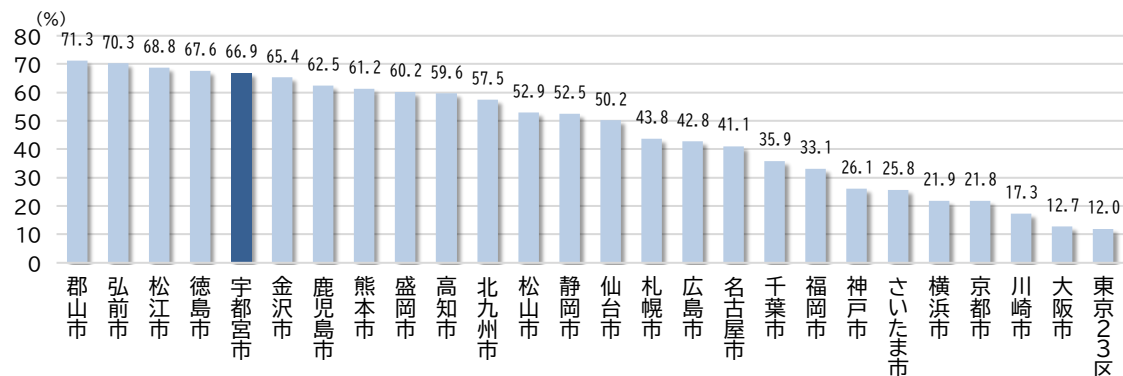


出典：全国都市交通特性調査を基に作成



出典：県央広域都市圏生活行動実態調査

自転車分担率（平日）の他都市との比較（R3）



出典：全国都市交通特性調査を基に作成

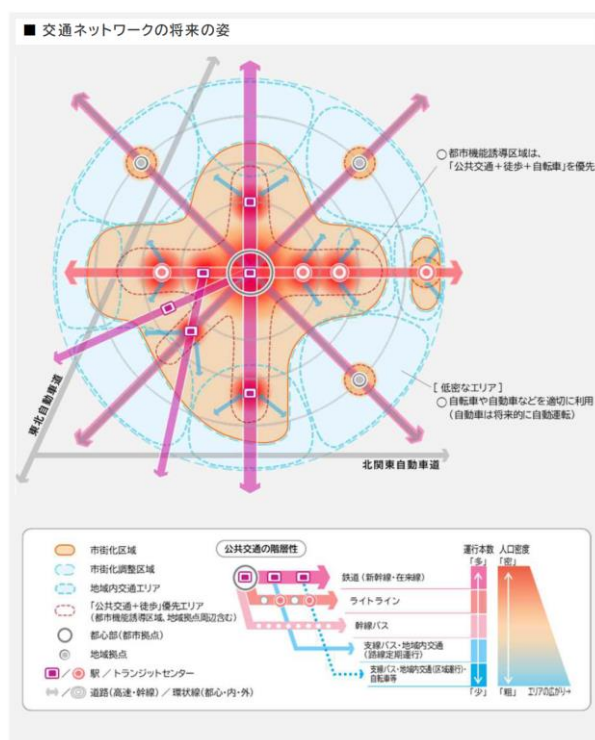
自動車分担率（平日）の他都市との比較（R3）

※分担率（交通分担率）：利用している交通手段の構成比率

2) 公共交通ネットワーク

NCC の形成を支えるため、ライトラインの導入やバス路線の再編、地域内交通の拡充など、階層性のある公共交通ネットワークの充実・強化を図ることにより、市民や来訪者など、誰もが市内のどこへでも自由かつ快適に移動できる環境を整備しています。

公共交通・徒歩・自転車と自動車連携・共存できるバランスの取れた交通ネットワークの構築に向け、自転車関連では公共交通との連携強化を図るため、シェアサイクルの充実や駐輪場の整備など、自転車利用環境整備を進めています。



出典：第2次宇都宮市交通戦略（令和6年6月）

交通ネットワークの将来の姿



ライトライン



路線バス

3) サイクルスポーツ

① 宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース

宇都宮ジャパンカップサイクルロードレースは、1990年（平成2年）にアジアで初めて宇都宮市で開催された「世界選手権自転車競技ロード競技」のレガシーとして、1992年（平成4年）に創設された歴史ある大会です。

初日の金曜日は全出場チームが顔をそろえる「チームプレゼンテーション」、2日目の土曜日は、本市中心部の大通りをハイスピードで周回する「宇都宮ジャパンカップクリテリウム」、最終日の日曜日は、標高差185mを14回にわたって駆け上げる、アジア最高位のワンデイレース「宇都宮ジャパンカップロードレース」が実施され、世界トップ選手による本気の走りや国内チームが世界に立ち向かう走りを間近で体感することができます。

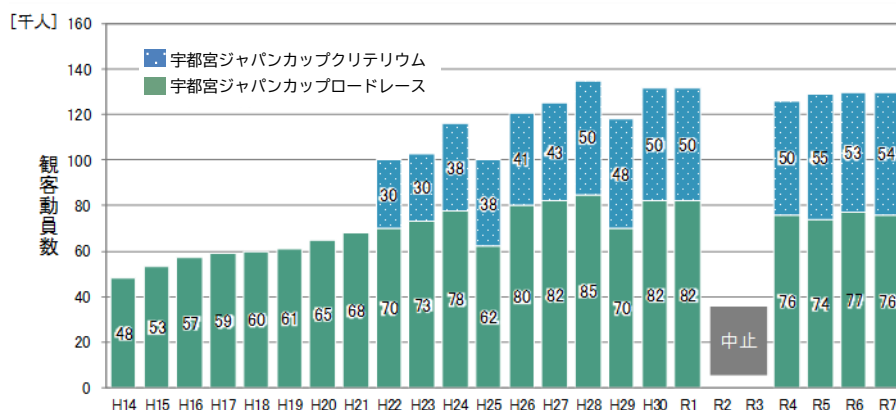
また、子どもたちによる「キックバイク大会」や「クリテリウムパレードラン」のほか、女子選手による「ウィメンズクリテリウム」など、幅広い方々が参加できる多彩な付帯レース・関連イベントも展開しており、2025年大会では3日間で延べ13万人を超えるサイクルファンが本市を訪れました。



宇都宮ジャパンカップクリテリウム



宇都宮ジャパンカップロードレース



宇都宮ジャパンカップ観客動員数の推移

② 宇都宮ブリッツェン

日本初の地域密着型プロサイクルロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」が平成 20 年 10 月に誕生し、本市をホームタウンとして活動しています。

「宇都宮ブリッツェン」は、JBCF（一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟）主催の日本最高峰の自転車ロードレースツアーである「Jプロツアー」に参戦しており、2025 シーズンでは 4 回目のチーム年間総合優勝を果たすなど、日本トップクラスのサイクルロードレースチームです。

また、市内の中学・高校などを対象とした交通安全教室や本市からの委託事業である 65 歳以上の方を対象とした「いきいき健康自転車教室」など、自転車の交通安全の推進や自転車の普及啓発のための地域貢献活動にも積極的に取り組んでいるほか、快適かつ安全にサイクリングしながら、観光地や豊かな農産物などの本市の魅力を楽しめるサイクルツアーも行っています。



交通安全教室

出典：Astemo 宇都宮ブリッツェン

③ 宇都宮競輪場

昭和 25 年に競輪場を開設し、毎年 5 月に開設記念競輪（GⅢ）「レジェンド神山雄一郎カップ」を開催しており、最高の競輪タイトル戦である特別競輪（共同通信社杯競輪（GⅡ），女子オールスター競輪（GⅠ）など）も数年に一度の間隔で開催しています。

平成 21 年 4 月にはメインスタンドの全面改築が完了し、スタンド内には「市民に親しまれる競輪場」をコンセプトに、シアターホールや一般開放型レストランを新設し、イベント会場として活用しているとともに、普段入ることができない競走路を歩けるバンクウォークや脱補助輪プロジェクト（自転車の乗り方教室）なども開催しています。また、平成 30 年にナイター照明を新設し、昼間とは違う雰囲気の中で楽しめるナイター競輪や夜遅くに開催しインターネット投票で楽しめるミッドナイト競輪も開催しています。



宇都宮競輪場メインスタンド



うつのみや KEIRIN フェスティバル